

科目名	投映法特論			ナンバリング	858185	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	今野仁博○	担当教員					

授業の概要	本講義では、投映法の理論と実際について、ロールシャッハ法(片口法)を取り上げ、その基礎を習得することを目的とする。具体的には、投映法の概論を理解した上で、ロールシャッハ法(片口法)の実施手順からスコアリングをへて解釈に至るまでの一連のプロセスについて取り上げる。さらに、テスト・バッテリーを組んだ実施例を通して、テスト・バッテリーの意義や組み方、そして総合的解釈についても学ぶ。						
到達目標	1. 投映法の理論的理解を深め、心理検査としての投映法の特徴を説明することができる。 2. ロールシャッハ法(片口法)の実施手順を理解し、適切に実施できる。 3. ロールシャッハ法(片口法)のスコアリングと解釈の基礎を理解できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	本授業の開始前に、受講生自らが被験者となってロールシャッハ法を体験しておくことが望ましい。また、ロールシャッハ法の学びを深めるために、授業では関連文献を紹介するので、精読することを勧める。						
ディプロマポリシーとの 関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
	○	1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
		2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
	○	3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
		4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 投映法の概論を理解し、説明できる。 2. ロールシャッハ法(片口法)の実施手順を理解し、適切に実施できる。 3. ロールシャッハ法(片口法)のスコアリングと解釈の基礎を理解できる。	1. 投映法の理論的理解を深め、投映法を他の形式の人格検査と比較し説明できる。 2. ロールシャッハ法(片口法)を適切に実施した上で、ロールシャッハ反応(行動)をコード化し、スコアリングできる。 3. 構造分析および継列分析の観点から、ロールシャッハ法(片口法)の解釈ができる。 4. テスト・バッテリーの意義や組み方を理解し、説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○					100%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	・授業中に課された課題に関しては、次授業の冒頭で解説する。 ・授業中に課されたレポートは添削し、授業最終日(15回目)に返却する。 ・毎回授業の質問や感想に対しては、次回の授業までにコメントする。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション 投映法の概論 ロールシャッハ法の序説(成り立ちと発展)	講義全体の流れの説明。他の形式の人格検査と比較しながら、投映法について解説する。また、ロールシャッハ法の成り立ちと発展についても解説する。	
	第2回	ロールシャッハ法の実施手順① 実施に関する理論的学習	ロールシャッハ法の実施手順を理解するために、教示、自由反応段階、質問段階、限界吟味段階について解説する。	
	第3回	ロールシャッハ法の実施手順② 実施に関する体験的学習(教示と自由反応段階)	教示と自由反応段階について、受講生はテスター役と被検者役になってロールプレイを行なう。	
	第4回	ロールシャッハ法の実施手順③ 実施に関する体験的学習(質問段階と限界吟味段階)	質問段階と限界吟味段階について、受講生はテスター役と被検者役になってロールプレイを行なう。	
	第5回	ロールシャッハ法のスコアリング① 分類の前提・コーディング	ロールシャッハ法のコーディングについて解説する。	
	第6回	ロールシャッハ法のスコアリング② コーディングの練習(反応領域)	ロールシャッハ反応をコード化する練習を行う(反応領域)。	
	第7回	ロールシャッハ法のスコアリング③ コーディングの練習(反応決定因・反応内容)	ロールシャッハ反応をコード化する練習を行う(反応決定因と反応内容)。	
	第8回	ロールシャッハ法のスコアリング④ 分類結果の整理	「Scoring List」、「Basic Scoring List」、「Summary Scoring List」の作成について解説する。	
	第9回	ロールシャッハ法の実施からスコアリングまでのまとめ	コーディングを理解した上で、質問段階について、受講生はテスター役と被検者役になってロールプレイを行なう。	
	第10回	ロールシャッハ法の解釈① 各記号や一般的指標の意味	ロールシャッハ反応の分類結果の整理から得られた各スコアの意味を解説する。	
	第11回	ロールシャッハ法の解釈② 構造分析	「Summary Scoring List」を基に、ロールシャッハ反応を数量的に分析し、解釈する方法を解説する。	
	第12回	ロールシャッハ法の解釈③ 継列分析	被検者のロールシャッハ図版への関わり方のプロセスを追いながら、その被検者の自己表現にみられる心理的特徴を捉えていく方法を解説する。	
	第13回	ロールシャッハ法の臨床的適用 各種精神疾患(障害)のロールシャッハ反応	各種精神疾患(障害)に見られやすいロールシャッハ反応を解説する。	
	第14回	テスト・バッテリー① テスト・バッテリーの組み方や意義	テスト・バッテリーの意義や組み方について解説する。	
	第15回	テスト・バッテリー② 総合的解釈	テスト・バッテリーの結果のまとめ方について解説する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		講義と演習で授業を進める。講義では、プリントを配布し、ロールシャッハ法の実施手順、スコアリング、解釈などを解説する。また、演習では、実施手順を体験的に学習した上で、スコアリング(主にコーディング)の練習を行う。		
授業外学習の指示		授業外学習として、宿題を課している(各授業回で課題を指示する)。また、ロールシャッハ法を理論的に理解するために、配布プリントを中心に講義内容を復習する。不明な点は教員に質問すること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	教科書は指定しないが、プリントを配布する。
参考書	・片口安史(1987)『改訂 新・心理診断法』金子書房(定価9500円＋税)ISBN9784760825486 ・小野和雄(1991)『ロールシャッハ・テストその実施・解釈・臨床例』川島書店(定価4500円＋税ISBN9784761004439) ・その他の参考書に関しては、適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	なし
その他	なし